

青葉小だより

平成27年11月5日 文責 校長 田中 理章

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
 この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
 学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
 なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

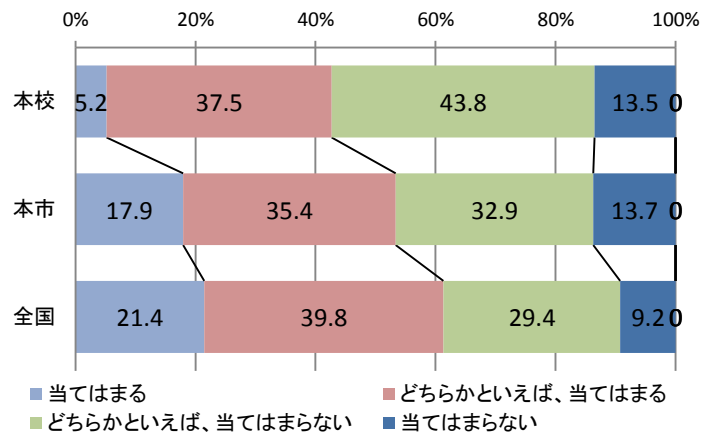
① 学力調査結果と分析

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	学力の状況
国語A	・全体的には全国平均正答率をやや上回っているが、依然として言語についての知識理解の定着が不十分である。 ・話す・聞く能力を問う問題に課題があり、目的や意図に応じて聞き方を工夫する指導の充実を図る必要がある。	全国平均正答率との比較
		上回っている
国語B	・全国平均正答率をわずかに下回っている。特に、自分の考えを書く問題の無解答率が高く、書くことへ苦手意識をもっていることがはっきりとわかる。 ・文章と図を関係付けたり、目的や意図に応じ、内容を整理したりして自分の考えを書く問題に課題がある。	全国平均正答率との比較
		下回っている
算数A	・全国平均正答率を上回っている。数量関係の正答率が高く、基礎的な計算力がしっかりと身に付いている。 ・他の領域に比べ、図形領域の問題の正答率が若干低いことから、苦手意識が伺われる。	全国平均正答率との比較
		上回っている
算数B	・全国平均正答率を上回っている。しかし、依然として、考え方を説明する問題の無解答率が高いという点で課題が残る。 ・特に、図形や数と計算の領域において、算数的な考え方がよくできるようになってきている。	全国平均正答率との比較
		上回っている
理科	・全国平均正答率を上回っている。主として「知識」に関する問題の正答率が高く、基礎的な知識が定着していると言える。 ・主として「活用」に関する問題の無解答率が高いことから、考察したことや判断した理由を説明する指導の充実を図る必要がある。	全国平均正答率との比較
		上回っている

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・読書が好きだと答えた児童の割合が相変わらず全国平均よりも高い。これは、本校のブックヘルパーによる読み聞かせや図書館開放等の取組の成果であると言える。
 ・400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことを難しいと思う児童が全国平均よりも高い。また、国語科の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫するという児童が少ない。今後は、自分の考えを書く活動や話す活動を意図的に多く取り入れるように授業改善を図る。

○国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。



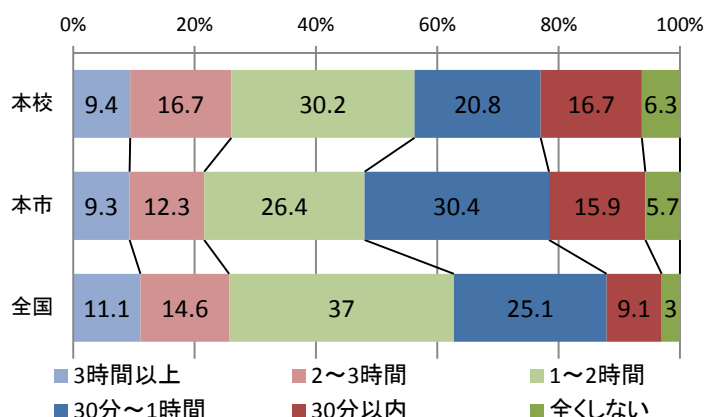
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・1日当たりの勉強時間が30分以下の児童の割合が全国平均よりも高い。このことと連動して、学校の授業の予習や復習をする児童の割合も全国平均に比べて低い。これらの原因として、自分で計画を立てて勉強する方法が身に付いていないことが調査結果からも分かる。

・今後は、各学年に応じた家庭学習の課題を設定し、指導する。また、保護者の家庭学習に対する意識をより高めるために、学校独自に作成した「家庭学習の手引き」を配布したり、各種通信等を活用したりする。

○学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。(学習塾等も含む)



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・学級みんなで協力して何かをやり遂げるよさを体験している児童が、全国平均に比べて低い。また、学級会などで自分たちの学級のことについて話し合う経験も全国平均に比べて少ない。他者と関わることのよさを味わえていないため、児童一人一人の連帯感や所属感もあまり育っていないと感じる。

・今後は、学級活動をはじめとし、何事にも主体的に取り組もうとする意欲や他者と協働しようという気持ちを児童に育てていくために、喜びや達成感を味わえる活動を多く設定する。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
 - ・無解答率が高かった学力テストの問題を検証し、具体的な指導方法を話し合う。(全職員)
- 補習授業の実施
 - ・週4回の「寺子屋タイム」を月、火、水、金曜日の給食準備時間や休み時間に実施する。(校長、教頭、教務主任、少人数指導教員)
 - ・その日の授業中のつまづきをその日のうちに解消させるために「放課後寺子屋タイム」を毎日行う。(教務主任、少人数指導教員)
- 基礎的・基本的な内容の定着を図る朝自習(8:40～8:50)
 - ・週2回(水・金)実施の「計算タイム」の内容を見直し、確実に実施する。(少人数指導教員・学年)
 - ・週1回(月)実施の「いきいきタイム」には、話す・聞く力を高めることをねらいとした活動を行う。(学年)
 - ・週2回(火・木)実施の「国語タイム」では、過去問題、ドリルプリントなどを効果的に活用していく。(学年)
 - ・基礎的・基本的な内容を重視したプリント集を作成する。(教務・学年)
- 音読暗唱ブック「ひまわり」の活用
 - ・校内「暗唱発表会」を実施することで、児童の意欲を高めると共に国語(古典)への興味をもたせる。(全職員)
 - ・校内「読書冊数コンクール」を企画し、読書の楽しさを味わわせ、読む力の育成につなげる。(全職員)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化
 - ・全学年で、自主学習を推進する。「自学ノートコンクール」を企画し、実施する。(全校)
 - ・全学年に「家庭学習の約束(1年生～6年生)」を配布し、保護者の家庭学習に対する意識を高める。(全校)
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック(ダイジェスト版)」を大いに活用する。(学年)
 - ・毎日、A4プリント1枚(漢字・計算)の宿題を必ず出すことで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。(学年・7年生)
- 長期休業期間中の宿題量の学校統一
 - ・夏休みは、B4両面30枚(表:国語、裏:算数)、B4両面10枚(他教科)以上を基本とする。(全校)
 - ・冬、春休みは、B4両面10枚(表:国語、裏:算数)、B4両面3枚(他教科)以上を基本とする。(全校)
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り・学校HPなどで、児童の学習状況等を発信する。(校長・教頭・教務)

